

2011年3月期連結決算内容

(2871)

株式会社ニチレイ

【お問合せ先】

広報IR部 田中 久

TEL: 03-3248-2235

E-mail: tanakah@nichirei.co.jp

URL: <http://www.nichirei.co.jp/ir/index.html>

2011年3月期通期連結業績

単位:億円 (未満切捨て)	第2四半期累計		第3・第4四半期 期間計		通期		
	実績	前年同期間 比増減	実績	前年同期間 比増減	実績	前年同期間 比増減	前回(E) 比増減
売上高	2,192	－30	2,185	＋27	4,378	－3	＋26
営業利益	89	＋14	77	－15	166	－1	－3
経常利益	86	＋17	75	－10	161	＋6	＋1
当期純利益	51	＋4	－11	－54	40	－50	－22
EPS(円)	17	＋2	－3	－17	13	－16	－7

注:(E)は2010年12月21日に発表したもの。

1.売上高

- ①通期は前年並。加工食品は家庭用が前年を上回るが、アセロラ飲料事業の売却の影響もあり全体では前年並。チキン加工品は拡販に成功し伸長。水産は1%の減収、畜産は1%増収。低温物流は物流ネットワークが好調な一方、地域保管は在庫水準低下の影響を受け、全体では前年並に留まる。

2.営業利益

- ①全体では前年比1億円の微減益。
 ②加工食品はチキン加工品調達コストの低減や工場の生産性の改善が奏効し20億円の大幅増益。
 ③水産は3Qまでは計画を上回って推移したものの4Qの貸倒引当金などの影響で3億円の減益。
 ④畜産は上期の口蹄疫・猛暑の影響や販売価格の低迷による収益悪化を下期で吸収しきれず3億円の減益。
 ⑤低温物流は物流ネットワークが順調に推移するも、地域保管の償却負担増や在庫率低下の影響もあり全体では6億円の減益。

3.経常利益・当期純利益

- ①区分地上権設定による補償金の受入益30億円、退職給付制度改定損66億円、震災による損失32億円の特別損益の発生により当期純利益は前年比で50億円の減益。

2011年3月期通期セグメント別売上高・営業利益

単位: 億円 (単位未満四捨五入、一部で端数調整あり)

		第2四半期(累計)			第3・第4四半期(期間計)				通期				
		実績	前年同期間比		実績	前年同期間比			実績	前年同期間比		前回(E)比	
			増減	率		10/3	増減	率		増減	率	(E)	増減
売上高	加工食品	809	-45	-5%	810	768	43	6%	1,619	-2	0%	1,603	16
	家庭用調理品	233	1	0%	247	232	15	7%	480	16	3%	468	12
	業務用調理品	376	-31	-8%	395	366	29	8%	771	-3	0%	782	-11
	健康価値	27	-22	-46%	22	30	-8	-28%	48	-31	-39%	52	-3
	その他	173	8	5%	146	139	7	5%	319	15	5%	301	18
	水産	344	7	2%	324	335	-11	-3%	668	-4	-1%	670	-2
	畜産	384	1	0%	399	393	6	2%	783	6	1%	770	13
	低温物流	702	7	1%	692	696	-3	0%	1,394	4	0%	1,402	-8
	物流ネットワーク	384	14	4%	385	382	2	1%	769	16	2%	774	-5
	地域保管	224	-8	-4%	213	220	-6	-3%	437	-15	-3%	444	-7
	海外	80	-4	-5%	85	82	3	4%	164	-1	-1%	161	3
	その他・共通	14	6	68%	9	12	-2	-18%	24	4	19%	23	1
	不動産	35	0	-1%	31	35	-3	-10%	66	-4	-5%	67	-1
	その他	30	-4	-11%	32	35	-3	-9%	62	-7	-10%	63	-1
	全社または消去	-112	3	—	-103	-102	0	—	-215	3	—	-223	8
	合計	2,192	-31	-1%	2,186	2,158	28	1%	4,378	-3	0%	4,352	26
営業利益	加工食品	25	20	377%	21	20	1	4%	46	20	80%	47	-1
	水産	7	3	91%	-1	5	-6	-114%	6	-3	-34%	10	-4
	畜産	0	-2	-83%	3	4	0	-13%	4	-3	-43%	3	1
	低温物流	39	-2	-5%	34	38	-4	-11%	73	-6	-7%	73	0
	物流ネットワーク	14	5	47%	12	10	1	14%	26	6	30%	27	-1
	地域保管	23	-5	-18%	20	25	-5	-21%	43	-10	-20%	43	0
	海外	4	-1	-25%	3	2	1	50%	7	0	-3%	6	1
	その他・共通	-2	0	—	-1	1	-1	—	-3	-1	—	-3	0
	不動産	19	0	2%	17	19	-2	-10%	36	-2	-4%	38	-2
	その他	2	0	15%	2	3	0	-12%	4	0	-2%	3	1
	全社または消去	-2	-5	—	0	4	-4	—	-2	-8	—	-4	2
	合計	90	15	19%	77	93	-16	-17%	167	-1	-1%	170	-3

1. 加工食品

- ① 全体の売上高は前年並。
- ② 家庭用調理品は市場の回復に加えてチキン加工品などで新商品の投入が奏功し前年比で3%の増収。「本格炒め炒飯」などの米飯類も好調。
- ③ 業務用調理品はチキン加工品が前期の一部OEM調達打切りの影響から下期以降急回復したが米飯類の不調もあり前年並にとどまった。
- ④ 猛暑による生鮮野菜の高騰で枝豆、ブロッコリーなどの農産加工品が好調。包装氷の取扱も伸長し、その他加工品で前年比5%の増収。
- ⑤ 健康価値はアセロラ飲料事業の売却で前年比39%の減収。
- ⑥ 営業利益は前年比20億円の大幅増益。4Qにタイの新設工場の立上げ遅れによる不稼働経費が増加したが、不採算だったチキンOEM製品の打切りによるコスト改善や国内自営工場の生産性の改善などが大きく寄与。

2. 水産

- ① 売上高は産地価格の上昇に伴い慎重な取り扱いを行った結果前年比1%の減収。えびは主力の東南アジア産の取扱が増加する一方、水産品はたこやさけ・ますなどの取扱が減少。
- ② 営業利益は前年比3億円の減益。たこ、えびの採算性の改善や中国委託加工を中心とした北方凍魚の利益獲得により好調だった前年並みで推移したものの、4Qで発生した貸倒引当金の設定、不良商品引落などにより減益。

3. 畜産

- ① 売上高は前年比1%の増収。
- ② 営業利益は上期は口蹄疫・猛暑の影響で仕入コストが上昇するも、デフレ状況下で販売価格への転嫁が進まず苦戦。下期に国産チキン、ビーフの市況が回復。加工品も収益に貢献したが、上期の遅れを取り戻すまでには至らず営業利益は前年比で3億円の減益。

4. 低温物流

- ① 全体の売上高は前年並。営業利益は減価償却費負担もあり前年比6億円の減益だが当初計画通り。
- ② 物流ネットワーク: 売上高は前年比2%の増収。新設TC(通過型センター)や輸配送業務の増収が寄与。配送効率向上による採算改善も進み営業利益は6億円の増益。
- ③ 地域保管: 荷主の在庫圧縮の流れを受け売上高は前年比で3%の減収。営業利益は設備投資による減価償却費の増加に加え在庫率の低下なども影響し10億円の減益。
- ④ 海外: 仏のゴドフロア社の買収効果や果汁の取扱が好調であった一方、為替換算の影響やチキンなどの主力商材の取扱減少が響いた結果、売上高、営業利益は減収、減益。

5. その他

- ① バイオサイエンスは前年好調だったインフルエンザ検査キットの取り扱いが減少し減収減益だがその他の製品が貢献し営業利益は当初計画を上回る。

2011年3月期通期連結バランスシートの変動要因

単位: 億円(未満切り捨て)

科目	11/3	10/3	増減	
〔資産の部〕				
流動資産	1,031	948	+83	①
固定資産	1,813	1,826	-12	②
資産の部合計	2,845	2,774	+70	
〔負債・資本の部〕				
流動負債	1,103	895	+207	③
固定負債	564	652	-87	③
負債の部合計	1,668	1,548	+120	
純資産の部	1,177	1,226	-49	④
(うち株主資本)	1,150	1,159	-8	
有利子負債	969	857	+111	③
(うちリース債務除く)	724	609	+115	
科目	11/3	10/3	増減	
設備投資額	210	236	-25	⑤
(うちリース資産除く)	172	172	-0	
減価償却費	141	135	+6	
(うちリース資産除く)	104	97	+6	

【主な要因】

- ① 震災後に手元流動性確保のため現金及び預金を45億円積み増し。
- ② 設備投資や仏のゴドフロア社買収などにより有形無形固定資産が42億円増加。退職給付制度改定により前払年金費用が55億円減少。
- ③ 設備投資の増加や現金及び預金の積み増しなどで有利子負債が111億円増加。
- ④ 自己株式の取得やユーロ安・株安により49億円の減少。
- ⑤ 設備投資の主なもの
(加工食品)
GFPTニチレイ、スラポンニチレイ食品(カビンブリ第2工場)
(低温物流)
東扇島DC、福岡東浜DC、曾於DC

2011年3月期通期 営業外収支・特別損益の変動要因

単位:億円(未満切り捨て) プラス表示は利益を示す		通 期				
		11/3	10/3	(E)	前年同期 間比増減	前回(E) 比増減
【営業外収支】		-5	-13	-10	7	+4
(主要項目)						
金融収支		-8	-11	-11	+2	+2
その他営業外収益		+3	-1	+2	+3	+0
【特別損益】		-72	-10	-56	-61	-16
(主要項目)						
固定資産売却益	①	+10	+2	+5	+7	+5
事業譲渡益	②	-	+8	-	-8	-
受取補償金	③	+30	-	+30	+30	+0
退職給付制度改定損	④	-66	-	-68	-66	+1
災害による損失	⑤	-31	-	-	-31	-31

注:(E)は2010年12月21日に発表したもの

- ① 土地売却益など
- ② 前年度に発生したアセロラ飲料事業譲渡益がなくなったため
- ③ 区分地上権設定に伴う特別利益
- ④ 退職給付制度の変更に伴う特別損失
- ⑤ 東日本大震災に伴う特別損失(P6にセグメント別の詳細あり)

震災による特別損失の主な内訳

単位: 億円(未満四捨五入)

セグメント	棚卸資産に係る損失	固定資産に係る損失	その他の損失	合計(億円)	主な被災事業所
加工食品	3	1	2	6	(株)ニチレイフーズ(白石、山形、船橋)、千葉畜産工業(株)
水産	2	5	0	7	まるいち加工(小名浜、気仙沼)
畜産	0	－	0	0	(株)ニチレイフレッシュファーム(本社、洋野農場)
低温	－	15	4	19	(株)ロジスティクス・ネットワーク(仙台物流、宮城野、仙台) (株)ニチレイ・ロジスティクス東北(仙台南) (株)ニチレイ・ロジスティクス関東(東京) (株)キョクレイ(大黒、山下)
不動産	－	0	－	0	
合計	5	21	6	32	

当社の自己株式の取得状況について

【目的】

・自己株式を取得することで安定的で適正な株価の形成を図る。

①中計目標 1,500万株(発行済株式総数の約5%)

②2011年6月23日までの目標

・700万株(上限) ・取得価額28億円(上限)

③2011年4月30日現在の取得状況

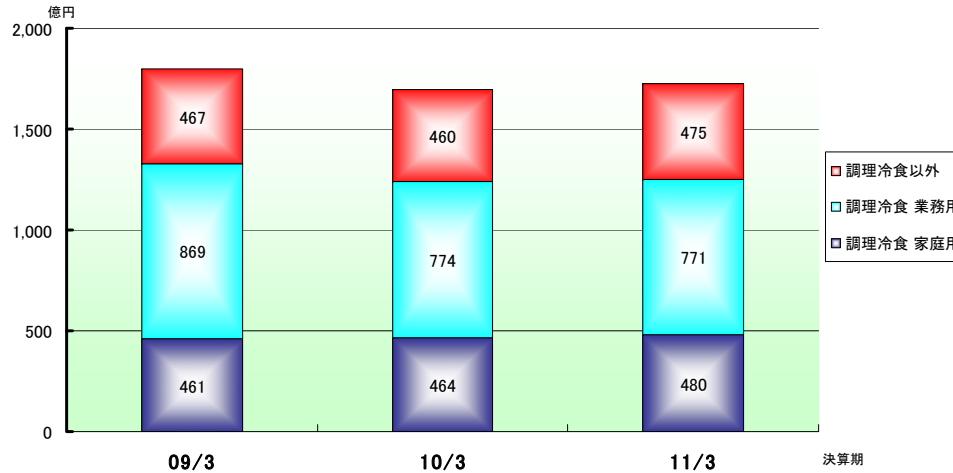
・470万株 ・取得価額 18億円 残株230万株

参考データ

冷凍食品売上高の推移

(日本冷凍食品協会定義にもとづき、加工食品のほか水産畜産の売上も含む)

冷凍食品売上高の推移

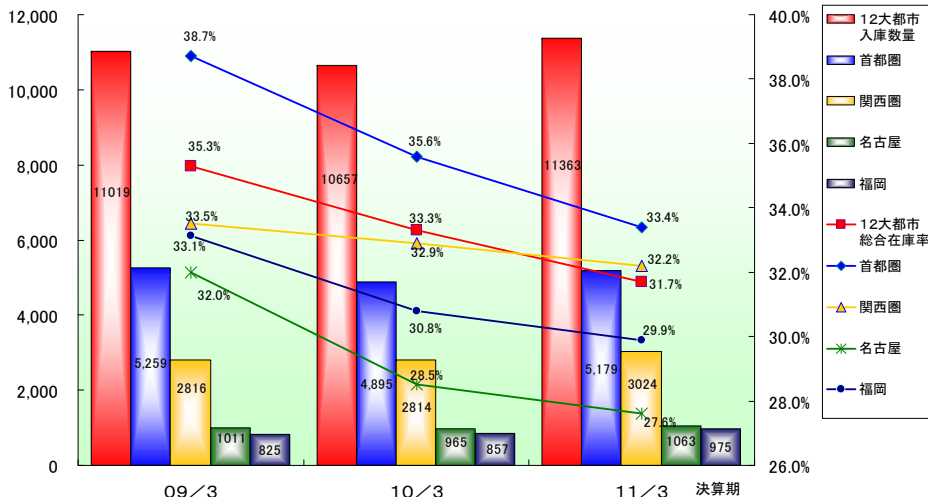


冷蔵倉庫の稼働状況 (業界は日本冷蔵倉庫協会資料を当社で加工)

一般保管入庫数量:千屯

業界の冷蔵倉庫稼働状況

総合在庫率



* 札幌石狩地区、名古屋尾北地区を含む。*11/3期の仙台市の3月データは震災の影響で出入庫がないという前提で作成

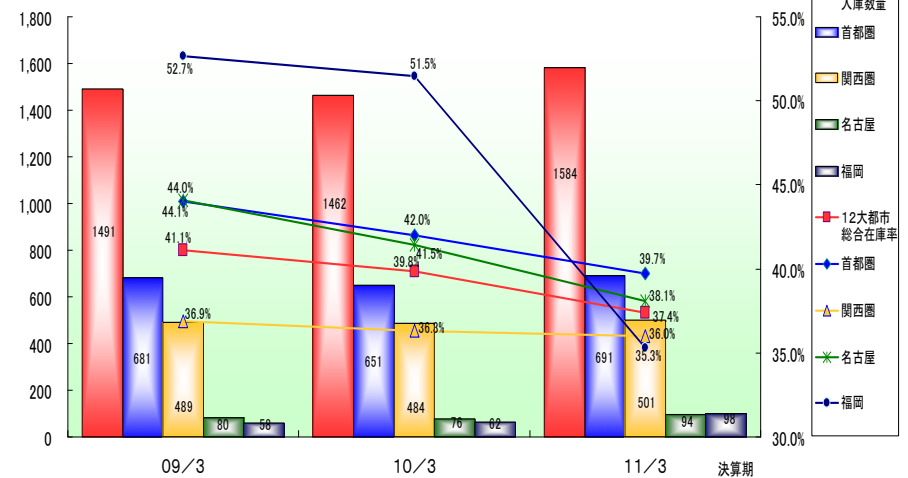
冷蔵倉庫業界収容容積国内シェア

(2011年1月1日 現在)

社名・グループ名	拠点数	能力 万トン	10/1比 増減	能力 シェア	主たる営業地域
ニチレイグループ	81	134	2	12%	全国
横浜冷蔵	42	71	0	6%	全国
マルハニチログループ	36	58	0	5%	全国
東洋水産グループ	16	34	0	3%	全国
日本水産グループ	16	33	1	3%	全国
ヒューテックノオリン	14	21	0	2%	全国
五十嵐冷蔵	9	23	2	2%	関東
松岡	6	16	0	1%	関東、関西、中国
鴻池運輸	13	15	0	1%	全国
宝船冷蔵	4	14	0	1%	関西
キューソー流通システム	22	14	0	1%	全国
二葉	5	13	1	1%	関東
兵食	7	11	0	1%	関西
ハウスイ	8	11	1	1%	関東
山手冷蔵	5	10	0	1%	関東、中部
港湾冷蔵	6	9	0	1%	関東、関西、九州
川西倉庫	6	8	0	1%	関東、関西
東京豊海冷蔵	3	7	0	1%	関東
その他	1,320	663	6	57%	
合計	1,619	1,164	12	100%	

ニチレイグループの冷蔵倉庫稼働状況

一般保管入庫数量:千屯



当資料取扱い上のご注意

当資料に記されたニチレイの現在の計画・見通し・戦略などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであります。将来の業績に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「確信」、「期待」、「計画」、「戦略」、「見込み」、「予測」、「予想」その他これらの類義語を用いたものに限定されるものではありません。これらの情報は、現在において入手可能な情報から得られたニチレイの経営者の判断に基づいております。実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これらの業績見通しとは大きく異なる結果となる場合があります。このため、これらの業績見通しのみに全面的に依拠して投資判断されることは、お控えいただくようお願いいたします。また、新たな情報、将来の事象、その他の結果にかかわらず、常にニチレイが将来の見通しを見直すとは限りません。実際の業績に影響を与え得るリスクや不確実な要素には、以下のようなものが含まれます：

- ①ニチレイグループの事業活動を取り巻く経済情勢および業界環境
- ②米ドル・ユーロを中心とした為替レートの変動
- ③商品開発から原料調達、生産、販売まで一貫した品質保証体制確立の実現性
- ④新商品・新サービス開発の実現性
- ⑤成長戦略とローコスト構造の実現性
- ⑥ニチレイグループと他社とのアライアンス効果の実現性
- ⑦偶発事象の結果など

ただし、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。また、リスクや不確実な要素には、将来の出来事から発生する重要かつ予測不可能な影響も含まれます。当資料は、あくまでニチレイをより深く理解していただくためのものであり、必ずしも投資をお勧めするためのものではありません。